

平成 25 年度 事 業 報 告

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

1. 会員の状況

平成 25 年度内会員の異動

退会 0 社

入会 0 社

平成 25 年度末現在の会員 27 社

2. 会議

A理事会

・第 3 回 平成 25 年 6 月 14 日

1) 第 2 回社員総会議案審議

・第 4 回 平成 25 年 6 月 14 日

1) 理事・監事選任の件

・第 5 回 平成 26 年 1 月 30 日

1) 平成 25 年度上期事業報告

2) 平成 26 年度暫定予算承認の件

B総会

・第 2 回社員総会 平成 25 年 6 月 14 日

1) 平成 24 年度事業報告並びに収支決算・公益目的支出計画
実施報告書の承認を求める件

2) 理事・監事選任の件

3) 平成 25 年度事業計画に関する件

4) 平成 25 年度収支予算の承認を求める件

5) 平成 25 年度会費徴収方法の承認を求める件

3. 運営委員会の活動

- 1) 毎月 1 回（但し、8 月を除く）定例会議を開催、総会及び理事会の方針に基づき、重要事項の審議、並びに処理にあたった。

- (1) 平成 26 年度の事業計画や収支予算の策定を行った。
- (2) 平成 26 年度の会費徴収（案）について審議、策定を行った。
- (3) 公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益認定委員会事務局に提出し、公益目的支出計画実施の完了通知を受けた。
- (4) 「道路橋支承部の改善と維持管理技術」の改訂版作業について派遣委員を決定した。
- (5) 国交省の H25 年度「道路ふれあい月間」（8 月 1 日～31 日）の主旨に賛同し参加を決めた。
- (6) KABSE(九州橋梁・構造工学研究会)との共同研究の継続を決定した。
- (7) 日本支承協会主催による支承講習会を仙台に続いて、関東、近畿、九州地区で開催する事を決めた。

4. 各委員会報告

A. 技術委員会報告

1) KABSE 支承研究分科会報告

九州橋梁・構造工学研究会（KABSE）との共同研究を平成 24 年度に引き続き行った。

今年度の課題は、以下のとおりであった。

鋼製支承 WG・・・FEM 解析と解析結果を基にコンパクト設計された新型 BP 支承の載荷試験を行い、設計の妥当性を検証する。

載荷実験は日本鑄造所有の載荷試験装置を用いて行われ、現在解析値との整合性を検討している。

ゴム支承 WG・・・既設ゴム支承の変位抑制装置を考案し、実験によりその妥当性を検証する。

載荷実験は、熊本大学所有の載荷試験装置を用いて行われ、ほぼ想定通りの性能が確認された。

なお、本研究の成果は、平成 26 年 10 月に技術研究発表会において発表される予定である。

2) 九州工業大学への技術協力について

九州工業大学では、国交省からの補助金により橋梁の津波被害についての研究を H24～H26 の 3 年間の予定で進められている。津波による支承の損傷について、当協会に技術協力の要請があったので受諾した。当協会では、損傷事例を基に損傷に至るメカニズムについて、推測される挙動を報告した。

これらの結果は、構造工学論文集において発表される予定である。

3) 土木学会年次学術講演会への論文投稿について

平成 25 年度土木学会年次講演会において、当協会技術委員会より「支承近傍のオゾン濃度計測」と題し論文の投稿を行った。本件は、当協会で購入したオゾン測定装置を用いて各所でのオゾン濃度を測定した結果をまとめたものである。

オゾン濃度測定については、未だデータ数が少ないため、引き続きデータの収集を行っている。

4) 支承協会主催による支承講習会について

当協会主催による支承講習会を仙台地区、東京地区、大阪地区、九州地区で開催した。

各地区における基調講演は当協会および支承に関わりのある大学の先生や官僚の方々に講演していただいた。また、本編の講師は4名の技術委員が①支承の基礎知識、②支承の歴史、③支承の維持管理、および④鋼製支承の地震時安定性の4編に分けて、各編あたり約60分の講習を行った。

講習会参加者は、各地区共に定員に対し80%以上の参加があり、盛況のうちに終了した。なお、講習会参加者へのアンケート調査を実施し、回答いただいた方の90%以上の方々によかったとの評価をいただいた。

5) その他の講習会について

協会主催の講習会以外に、関係団体からの依頼により講師として講習会を行った。

- ・ 橋梁調査会主催「支承の維持管理に関する勉強会」
- ・ 建設コンサルタンツ協会主催「支承の維持管理」
- ・ 首都高速道路(株)主催「若手技術者のための支承講習会」

6) 橋梁支持機能委員会について

土木学会橋梁支持機能委員会が今年度新たに発足した。これは、平成20年5月に発刊された「道路橋支承部の改善と維持管理技術」を補完するためのものと位置づけされる。(東日本大震災の事例や新たな知見に基づく資料の報告等)本委員会には、川金、日鑄、オイレスより委員として参加し、委員会の内容は技術委員会で報告される。これに伴い、技術委員として新たに川金、日本鑄造より2名が増員、承認された。

7) 支承便覧改定WGへの参加

現在改定作業中の支承便覧改定のためのWGに川金、日鑄、オイレスより委員として参画している。現在、新たな支承便覧改定版は、平成26年7月頃に発刊される予定で作業が進められている。

8) 名古屋大学とのゴム支承のオゾン劣化に関する共同研究について

平成24年より「ゴム支承のオゾン劣化による表面亀裂に関する研究」として、名古屋大学と3ヶ年を目途とした共同研究を行っている。

本年度は、大型恒温型オゾン槽内を高濃度オゾン状態にして、縮小ゴム支承試験体をせん断変形させた状態で放置し、時間経過による変化を観察する実験を行っている。現在、実験は継続中である。

B. 市場調査委員会報告

1) 橋梁発注状況（市場動向）

平成25年度の市場動向は入札の不調、人材及び材料の入手難で期待に反し低調となった。その結果平成25年度はPC橋において対前年比1%と微増に留まった。鋼橋においては対前年比4%の増加が見られた。平成26年度は政府の三本の矢政策の影響で工事の進捗が加速されるのが望まれるが、前年同様に人材、材料の不足、高騰は一朝一夕に解決される訳もなく、今年度並みの増加にとどまるのではないかと懸念される。解決策として東京オリンピックまでの工事凍結を建築分野においては延期する自治体も見受けられる。これが橋梁分野に波及しない事を願ってやまない。

2) 関係機関への広報活動状況

- (1) 橋梁調査会東北支部主催「支承の維持管理に関する勉強会」
- (2) 建設コンサルタンツ協会関東支部主催「支承の維持管理」
- (3) 首都高速道路主催「若手技術者のための支承講習会」
- (4) ネクスコ東日本エンジ主催「H25年度維持管理エキスパート研修」の内「支承勉強会」

3) 支承協会主催「支承講習会」の実施

- (1) 仙台に於いて建設コンサルタンツ協会東北支部共催で実施
- (2) 東京に於いて建設コンサルタンツ協会関東支部共催で実施
- (3) 大阪に於いて建設コンサルタンツ協会関西支部共催で実施
- (4) 福岡に於いて建設コンサルタンツ協会九州支部後援、KABSE 共催で実施

4) 今後の講習会実施予定

- (1) 札幌に於いて建設コンサルタンツ協会北海道支部後援、北海道土木技術会 鋼道路橋研究委員会後援にて開催予定
- (2) 名古屋に於いて建設コンサルタンツ協会後援にて開催予定
- (3) 関東地方整備局において[橋梁の支承に関する維持修繕勉強会（初級）（中級）]開催予定
- (4) 支承協会主催「支承講習会」も当初計画のものが終了した時点で内容、時期、場所を計画実施予定

C. 若返り工法委員会報告

1) 隔月おきに定例会議を開催し次の様な活動を行った。

- (1) 金属溶射 (AlMg) の試験施工を7月に大東金属の現場にて実施。
- (2) 金属溶射 (ZnAl, AlMg) 供試体（鋳鋼製）の塩水噴霧試験を3月下旬より開始。
3000時間（約4か月）経過後、試験結果提出（8月頃）
- (3) グリスアップ工法のカタログ等の内容検討。
- (4) 品質管理の仕様規定（使用材料規定、膜厚規定等）について討議。

(5) 亜鉛メッキ面に金属溶射して問題ないか、付着試験にて確認予定。

(6) 平成 25 年度施工実績

国土交通省	4 2 1 基	(前年度	1, 1 1 6 基)
都道府県	1, 1 0 9 基	("	8 8 3 基)
市町村	2 8 9 基	("	2 4 6 基)
N E X C O	8 4 基	("	5 3 基)
その他	2 基	("	1 2 基)
計	1, 8 1 5 基	(前年度	2, 2 5 7 基)

D. 広報委員会報告

1) 協会誌「かなめ No. 18」の発刊

平成 24 年より記事内容の編集作業を毎月の委員会にて実施。

平成 25 年 12 月 20 日、関係機関 1,500 件宛へ発送。

2) 「かなめ No. 18」に関する訪問と面談

(1) 北陸地方整備局 富山伏木港湾事務所 (写真)

(2) 鉄道運輸機構 (写真)

(3) 東北地方整備局 道路部 (執筆)

(4) 土木研究所 構造物メンテナンス研究センター (執筆)

(5) J F E エンジニアリング (写真と執筆)

(6) 仙台地下鉄線竜の口橋りょう建設現場 (写真)

3) 「かなめ No. 18」の記事用に現場視察

(1) 仙台地下鉄「竜の口橋りょう」建設現場を視察。

(2) 東日本大震災の被災地区とし、仙田空港周辺を視察。

(3) 100 年経過橋梁の一物件、横浜市の「霞橋」を視察。

4) 次期発刊「かなめ No. 19」の記事検討

・年明け 1 月より毎月の委員会活動にて記事内容について討議継続中。

5) 支承講習会の運営対応

・仙台、東京、大阪、福岡での支承講習会の運営対応。

E. 当協会の関連機関

公益社団法人	日本道路協会
一般社団法人	日本橋梁建設協会
一般社団法人	プレストレスト・コンクリート建設業協会
公益財団法人	高速道路調査会
一般財団法人	橋梁調査会
	日本鑄鍛鋼協会
	全国土木部長会